

AIDS 孤児里親通信

子どもたちの成長を祈って



いつも私たちのAIDS孤児支援にご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

AIDS孤児とは、両親あるいは片親のどちらかをAIDSで失った子どものことです。現在世界中に約1500万人のAIDS孤児が存在しており、2010年までにその数は2,000万人を超えるといわれています。

小さな時に親の死という大きな苦しみに直面してAIDS孤児となった子どもたちは、衣食住をはじめ、教育、医療等あらゆる面で困難な状況にある上、言われない差別等での精神的な負担なども抱えています。母子感染で、生まれた時からHIV感染している子どももあり、そのような子どもたちは日常生活でも衛生面に特別な配慮が必要で、時には薬を飲み続けなければなりません。



2008年8月 愛の家にて

私たちAWCでは1999年からこのような子どもたちと交流をし、子どもたちへの支援を続けてきました。交流を始めたころにはまだ小さかった子どもたちも、それぞれの施設の手厚い保護のおかげですくすくと成長しています。会うたびに子どもたちが大きくなっていくことは、私たちの大きな喜びです。

成長に伴い、子どもたちの人生をさらに豊かなものにしていくために、これからはこれまでも増して経済的な支援が必要となってきます。今後とも「里親基金」にご協力をよろしくお願いいたします。

「看護婦さんになりたい。」「警察官になりたい。」「学校の先生になる。」という子どもたちの将来の希望が何とか叶うことを私自身も心から願っています。

アジアの女性と子どもネットワーク
代表 マリ・クリスティーン

スタディツアーで訪問しました

AWCでは、2008年8月にスタディツアーで「愛の家」「希望の家」を訪ねました。

「愛の家」では、この施設を創設されたキムさんからタイのAIDS事情や課題や「愛の家」の現状をお聞きしました。その後、子どもたちが歌と楽器演奏で私たちを歓迎してくれました。



子どもたちは、とても元気で、落ち着いた暮らしをしている様子がうかがえました。

「愛の家」の子どもたちはタイ語と英語で自己紹介

をしてくれました。その英語の上達ぶりに、よく勉強している様子がうかがえました。

「希望の家」でも、この施設の寮母のタッサニーさんから近況などの話をお聞きしました。

子どもたちは学校から帰ると、それぞれ当番の掃除や食事の準備を始めます。



私たちはタッサニーさんのお話の後、当番以外の子どもたちや小さい子どもたちとシャボン玉や紙風船で遊び、夕食を一緒に食べました。

夕食後は勉強タイム。宿題をしたり、スタッフの指導で教科書を読んだり、全員とても熱心に取り組んでいました。

「希望の家」でも子どもたちは助け合いながらスタッフに見守られ健やかに成長しています。

9月には日本大学国際関係学部の学生たちも訪問し、紙飛行機を飛ばして遊んだり、ゲームをして交流しました。

AWCでは今後も「愛の家」「希望の家」を訪ね、子どもたちと交流したいと思っています。



近況報告が届きました

愛の家

今年が一番のニュースは何といっても新しい家が
でき、引っ越しをしたことです。今までの家は、30人
の女性と子どもが暮らすには狭かった上に、2005
年の大洪水で1mも浸水したせいでカビも生えやす
く、耐久性も弱まってしまい、あまりいい環境とは言
えない状態でした。

今度の家は、環境のいいチェンマイ郊外にあり、広
くて田んぼに囲まれ、裏庭では野菜も栽培できま
す。3月末の学校の夏休みに少しずつ荷物を運び、
5月の新学期には新しい家での生活が始められま
した。女子寮はできましたが、男子寮は資金不足で
まだできていません。

また新しい家には、今まで離れた場所にあった事
務所もでき、またスラムの子どもたちのためのデー
ケアセンターの役目も兼ねています。

子どもたちは落ち着いた状態にあります。一人の
女の子が昨年から体調を崩して、
学校も休んでいます。合う薬が
見つかれば、今は落ち着いてい
ます。体調のいい時には家の中
でスタッフに勉強を教わっていま
す。保護者の育児放棄で愛の家
に来た当時には話すことができな
かったS君も全日制の聾唖学校に
元気に通っています。



他の子どもたちの健
康状態は安定してい
て、ごく普通の子ども
のように学校生活を
楽しんでいます。

しかし、子どもたち
の半数が10代の思
春期を迎えた女の
子たちで、自分たちの病気のこ
とや家庭環境、将来の
ことについての悩みをキムさん
や寮母さん・専属の
看護師、そして時々訪ねる私
に打ち明けてくるようにな
りました。これから彼女たちの
精神的なケアなどが大きな問
題となってくるそうです。



希望の家

希望の家のS君とJ君は今、2010年1月の大学入試に向けて勉強に力を
入れています。S君は社会学を、J君は英語を専攻したいとのこと。希望
の家に暮らす子どもたちにとって、彼らが大学に進むことは大きな励み
になると思います。大学に進学すると学費
や通学費・昼食費などで一人につき年額
5万バーツ(約15万円)かかりますが、そ
の内約半分を金利のつかない貸付金と
し、就職後少しずつ返還することが大学進学
の条件です。この貸付金の原資として
AWCからの奨学金も使われることになりました。



先日、中学卒業を目の前に希望の家を離れたAさんが農作業を手伝いに来
て、子どもたちに「中学だけは卒業するように！寮母のタッサニーさんに言われ
たことが今になってわかる」と勉強することの大切さを話してくれたそうです。そ
れを聞いた子どもたちは、その後より一層熱心に勉強するようになったとのこと
です。



チェンマイの子どもたちとネット通信で話しました

2009年9月、横浜開国博の会場で私たちの支援している「愛の家」「希望の家」の子どもたちと横浜の子どもたちがインターネットを通してテレビ電話交信をしました。

初めてタイの子どもたちと話をした横浜の子どもたちは、好きな色や食べ物、スポーツなどについて質問をし、知らない食べ物や暮らしぶりなどにも大いに興味を持った様子でした。

私たちスタッフにとっては子どもたちと会うのはほぼ1年ぶりでした。テレビ画面を通しての対面でしたが、私たちのことを覚えていてくれて、ニコニコと笑いながら親しげに手を振ってくれ、思わずこちらも手を振り返りました。タイ語ができないために直接話せないことがもどかしい思いでしたが、目と目で十分にお互いの思いが伝わった感じがしました。



テレビ交信のためにパソコンを抱えてそれぞれの施設を訪問し、通訳を務めたスタッフからも次のような感想が寄せられています。



ご協力ありがとうございました

里親・里親基金にご寄付くださった皆様

高橋清実 石井圭子 城条洋子 長島道子 堀江五十鈴 小島重喜
エンター光代 斉藤徹 佐々木雅祥 赤間幸子 眞武崇 軽部純子
渡辺優子 阿部潔 中根悠木子 佐藤貴美枝 鈴木八重子 横山肇
山本有紀乃 木野美穂 コスモスの会 支援キルトの会ふーぶ
安藤芳子 落合貴美恵 清水雅子 富田紋子 原梓 山本博子
マリ・クリスティーヌ

スタディツアー参加者

太田昌治 城条洋子 伊藤菜穂 安元隆子 浅井佐木 新井良平
池田卓弥 大場絵美 柿内愛 柏木千恵子 蔵重七海 毛塚香那
後藤静香 小西将彦 嶋谷亮太 田崎真海 高橋温子 川村ひかる
永田賢一 中山郁美 藤波未紗 富田紋子 出羽明子 赤嶺恵理
原梓 マリ・クリスティーヌ 山本博子 落合貴美恵

ネット通信協力者

富田紋子 大里エミ 山本佳世 出羽明子 清水雅子 篠原大作
原梓 新井良平 池山洋二 粕山正行 安藤芳子 山本博子

チェンマイの通信先では

「日本のお友達に見られるからと、みんなとびっきりのオシャレをしたんですよ」

希望の家の寮母さんが言うように、子どもたちは今からどこかお出かけでもするのか、というほど着飾っていました。それは、ちょうど教会から帰ってきた後に交信予定だった愛の家でも同じでした。どちらの子どもたちも、横浜の子どもたちとの交信を、心待ちにしてくれていました。



小さい子どもの中には、何をしゃべっていいのかわからずカメラの前でコチコチに固まってしまう子もいましたが、そこは大きい子どもたちが助け舟を出し、自慢の歌を歌ってくれたり、踊ってくれたり、時間が経つにつれて雰囲気も和んできました。

彼らは普段、親や兄弟と離れて大人数で一緒に生活をしています。インターネット通信の間にも小さなトラブルはありましたが、それぞれがわがままを言ったり、自分勝手な行動をすることで、仲間に迷惑をかけるということ、身をもって知っているのです。どんな時も、小さい子も大きい子も助け合って、周りのことを思いやっ

て生きています。「野菜は自分たちで畑を耕して作っています」「小さい子も一緒に掃除をします」と言った言葉から、彼らの自分たちの生活に対する誇りが感じられました。

チェンマイ 富田紋子

送金しました (2008年4月～2009年11月)

皆様からお寄せいただいたご寄付を子どもたちの医療費・看護費・教育費・生活費などとして、下記の通り、それぞれの施設に送金しました。

* 愛の家 *

日本円：30万円とタイバーツ：3,000バーツ

* 希望の家 *

日本円：20万円とタイバーツ：5,000バーツ

AIDS孤児里親・里親基金にご協力ください。

チェンマイのAIDS孤児施設「愛の家」「希望の家」の子どもたちの医療費・看護費・教育費・生活費などの支援をお願い申し上げます。

里親：毎月5000円／年60000円の継続支援

里親基金：一口1000円、何口でも可

振込先：郵便振替口座 口座番号：00200-0-4109 口座名：AWC

*備考欄に「里親」「里親基金」と明記してください。

AIDS孤児絵画展・AIDS予防啓発活動

AWCでは、「愛の家」「希望の家」の子どもたちが描いた夢や村の風景の絵とメッセージの絵画展「笑顔いっぱいの世界に向けて」を各地で行っています。来場された方々から「元気な明るい絵に希望を持たせた」「子どもたちの哲学的な深いコメントに驚かされた」などの感想をいただいています。

また、昨年「プラバンでオリジナルのレッドリボン・ストラップを作ろう！」という企画を実施しています。大人から子どもまで楽しんで出来るHIV/AIDS啓発活動として、これからも実施していきたいと思っています。

地域のイベントや学園祭などへの出展開催も可能です。ぜひお声を掛けてください。

朗読「子どもの権利を買わないで」もこれから会場に合わせた開催ができるように考えております。多くの方に参加していただけますよう、皆様のご意見もお寄せください。

HIV/AIDSに関する活動

AIDS孤児絵画展

2008年3月 JICA横浜
2008年7月 県民サポートセンター
2009年9月 横浜開国博Y150ヒルサイド

HIV/AIDS予防啓発活動

2008年・2009年8月 AIDS文化フォーラムin 横浜
2008年・2009年11月 世界エイズデーin 横浜
2009年9月 HIV/AIDSについて考えよう！

「大切なものは何ですか？」

2008年7月・9月 横浜開国博Y150ヒルサイド
映画「闇の子供たち」上映
講演会「性感染症の今
～AIDSまだ他人事だと思いませんか～」
朗読「子どもの権利を買わないで
～プンとミーチャのものがたり」

AIDS孤児の豆知識 Q & A

AIDS孤児とは？

AIDS孤児とは、両親あるいは片親をHIV/AIDSで亡くした18歳未満の子どものもので、本人が感染しているとは限りません。
現在世界中に1500万人以上いると言われ、2010年までには2500万人に達する見込みです。

HIV感染したお母さんから生まれる赤ちゃんは100% HIVに感染するの？

いいえ。HIVの母子感染率は約30%です。現在は、子宮内の子どもへの感染を防ぐ薬もありますから、感染率をかなり下げることが出来ます。

親がHIV感染することで子どもはどんな影響を受けるの？

親がAIDSを発症し働けなくなると、食べ物が十分に手に入らなくなる、学校に通えなくなる保健のサービスを受けにくくなる等、安心して暮らすことができなくなります。

これらの経済的問題のほかに、心理的な苦痛も背負うことになります。

おとなのケアを十分に受けられないため、差別を受けたり、児童労働や性搾取の危険性が高くなります。路上での生活を余儀なくされる場合も多く、HIV/AIDSに感染する確率も高くなります。

現在も日本では、先進国の中で唯一HIV感染者/AIDS患者が増え続けています。

遠い国の話ではなく、「あなた」の問題でもあるのです。これからは日本の中でも差別や排除するのではなく、予防を強化すると共に感染者/患者と共存していくことも考えていかなければなりません。ぜひ、身近な問題として考えてください。

アジアの女性と子どもネットワーク

発行 : 2009年12月15日
発行元 : アジアの女性と子どもネットワーク
発行責任者 : 山本博子
編集担当 : 安藤芳子・落合貴美恵



〒231-0015
横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内
TEL/FAX : 045 (650) 5430
Email : awc@h6.dion.ne.jp
URL : <http://www.awcnetwork.org>